

野外インスタレーション作品プラン公募 選ばれた1名は、500万で実現へ！



プロジェクトのはじまり

オリンピックは、世界最大の平和の祭典であり、スポーツの祭典であるとともに、文化の祭典でもあります。「京都文化力プロジェクト」は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会等を契機として、日本の文化首都・京都を舞台に行われる文化と芸術の祭典です。2020 年に向けて、「創造する文化 京都から世界へ」をテーマに、京都から多彩な文化・芸術を世界に発信するとともに、国内外の人々と交流・協働し、新たな創造の潮流を起こしていきたいと考えています。

この「京都文化力プロジェクト」の 2018（平成 30）年度のリーディング事業として、国内外のアーティスト、クリエイター、建築家等から、野外に一時的に創出されるインスタレーション作品のプランを公募し、その中から選出したプランを実現します。都市における空間を大胆かつ想像力豊かに活用し、各自の自由な発想で描かれた、「京都文化力プロジェクト」にふさわしい作品プランを募集します。

京都文化力プロジェクト website www.culture-project.kyoto



※インスタレーションとは

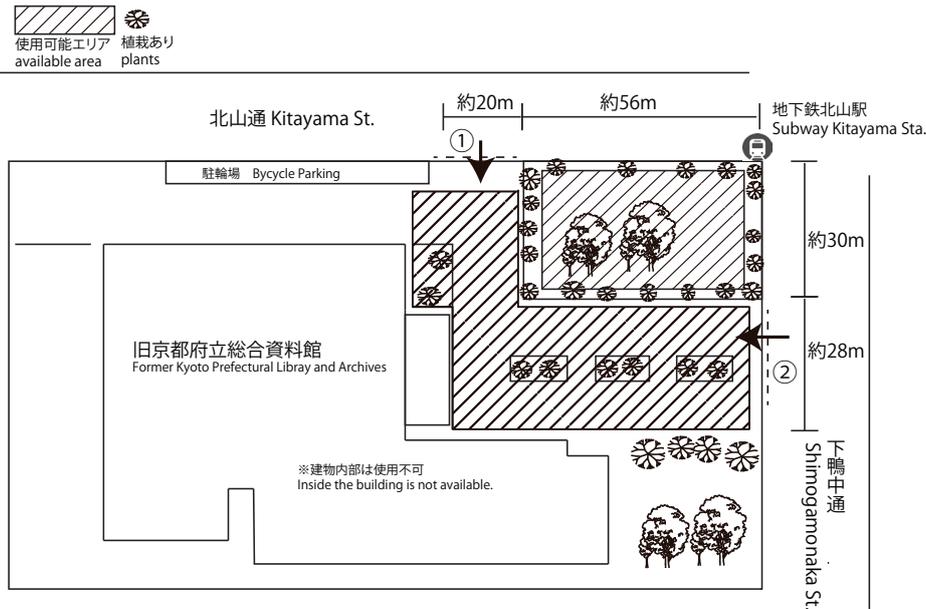
絵画・彫刻・映像・写真などと並ぶ現代美術における表現手法・ジャンルの一つ。ある特定の室内や屋外などにオブジェや装置を置いて、作者の意向に沿って空間を構成、変化させ、場所や空間全体を作品として体験させる芸術。

Point 1

広大な展示可能エリアで年齢／ジャンル不問！

展示可能なのは、現代は使用されていない旧府立総合資料館の屋外エリア。

火気、ガス、煙、周辺に影響を与える光や音は使用できませんが、
法令の範囲内で、作品のジャンルや手法、素材、形態、サイズなどは一切問いません！



応募資格

- ・ 年齢や国籍、個人、団体などは一切問いません。
- ・ 責任を持って、作品制作及び展示を完成させることができる方。

応募・制作規定

- ・ 作品のジャンルや手法、素材、形態、サイズなどは問いませんが、火気、ガス、煙、周辺に影響を与える光や音は使用できません。
- ・ 大賞に選出するプランは、展示終了後、会場を原状復帰できるものに限りです。
- ・ 旧京都府立総合資料館の建物は使用できません。ただし、映像の投影など壁面の使用については、観覧者が近づかないよう安全対策を行えば可能です。
- ・ 作品は約1か月の展示期間に耐えうる強度（基礎なども含む）を前提に制作していただきます。設計図や図面などがあれば応募書類に準じ、添付してください。展示作品はどのような天候や自然環境にも耐えられる作品であることが前提です。防火、防水、防風及び防塵などの対策も出展者自身で適切な措置をお願いします。
- ・ また、入場料の徴収はできません。
- ・ 旧京都府立総合資料館内のトイレは使用できません。また、建物からの電気及び水の提供はありません。映像機器や照明機器などが必要な場合、機器と配線は出展者自身でご用意ください。企画書に展示に必要な所要電気容量を明記してください。水を使用する場合は、出展者自身でご用意ください。
- ・ すでに発表された作品は応募できません。また、第三者の著作権や肖像権を侵害するもの、公序良俗に反するものは対象外です。
- ・ 大賞作品の設置場所や形態については、法令や安全対策など諸事情を踏まえ、事務局と協議の上、最終決定します。
- ・ 応募した作品プランから作品の内容や形状を著しく変更した場合は、受賞を取り消す場合があります。



Point 2

無限の可能性！大賞 500 万円

審査員の選考を経て、大賞に選ばれた 1 点のプランは、
プラン実現のための制作補助費 500 万円と、約 1 ヶ月間作品を展示する機会が授与されます。

賞

大賞：1 点（制作補助費 500 万円、作品展示）

入選：3 点程度（賞金 5 万円、プラン展示）

応募から選考、搬出までの流れ

- 1: 1 次審査【9 月下旬】
書類選考し、候補作品を選出します。
- 2: 2 次審査【10 月中旬】
- 3: 1 次審査通過者には、面接審査を行います。
- 4: 大賞及び入選プランの決定／10 月下旬
- 5: 大賞及び入選プランの発表／12 月初旬ウェブサイト等で公表します。
- 6: 作品搬入及び設置（搬入出日については、出展者と後日調整）
搬入・設置 2019（平成 31）年 2 月 9 日（土）～2 月 15 日（金）
展示 2019（平成 31）年 2 月 16 日（土）～3 月 17 日（日）
撤去・搬出 2019（平成 31）年 3 月 18 日（月）～3 月 24 日（日）

Point 3

ジャンルを横断する 強力で多彩な審査員

独学で建築を学び、世界の ANDO と言われるまでに国内外の建築界を席卷した安藤忠雄。アジア太平洋地域でもっとも歴史あるシドニー・ビエンナーレのアーティストリック・ディレクターに、アジア出身者としてはじめて就任し、大成功を収めた森美術館チーフキュレーターの片岡真実。キュレーター、美術大学学長、美術館館長（埼玉県立近代美術館、草間彌生美術館、京都芸術センター）、美術評論家として世界各地を飛び回る傍ら、詩人としてもますます精力的に活動する建畠哲。

美術、建築、デザインなど多様なジャンルの表現を見てきた 3 名の著名な専門家が審査員として名を連ねます。世界の目で作品のプランを見てもらえる、またとないチャンスになるでしょう！



安藤忠雄
TADAO ANDO

大阪生まれ。独学で建築を学び、1969年に安藤忠雄建築研究所を設立。代表作に「六甲の集合住宅」、「光の教会」、「TIME'S」 「FABRICA(ベネトンアートスクール)」、「ピューリッツァー美術館」、「フォートワース現代美術館」、「地中美術館」、「表参道ヒルズ(同潤会青山アパート建替計画)」、「プンタ・デラ・ドガーナ」、「上海保利大劇場」、「クラーク美術館」など。79年「住吉の長屋」で日本建築学会賞、85年アルヴァ・アアルト賞、89年フランス建築アカデミーゴールドメダル、93年日本芸術院賞、95年朝日賞、95年ブリツカー賞、96年高松宮殿下記念世界文化賞、02年AIAゴールドメダル、京都賞、03年文化功労者、05年UIA(国際建築家連合)ゴールドメダル、レジオンドヌール勲章(シュヴァリエ)、06年環境保全功労者。10年ジョン・F・ケネディーセンター芸術金賞、後藤新平賞、文化勲章。12年リチャード・ノイトラ賞、13年フランス芸術文化勲章(コマンドゥール)、15年イタリア共和国功労勲章グランデ・ウフィチャーレ章、16年イサム・ノグチ賞。11年東日本大震災復興構想会議議長代理、「桃・柿育英会東日本大震災遺児育英資金」実行委員長
イェール、コロンビア、ハーバード大学の客員教授歴任。
97年より東京大学教授、03年より名誉教授。著書に「建築を語る」「連戦連敗」「建築家安藤忠雄」「仕事をつくる」「TADAOANDO Insight Guide 安藤忠雄とその記憶」など。
18年10月10日~12月31日、パリ、ポンピドゥー・センターにて「安藤忠雄展 2018」開催。



片岡真実
MAMI KATAOKA

1965年愛知県生まれ。森美術館チーフ・キュレーター。(株)ニッセイ基礎研究所にて文化政策・都市開発と芸術文化事業関連の調査研究を経て、東京オペラシティアートギャラリー・チーフキュレーター(1997~2002年)。2003年より森美術館。2007~09年はヘイワード・ギャラリー(ロンドン)国際キュレーター兼務。第9回光州ビエンナーレ(2012年)共同芸術監督、第21回シドニー・ビエンナーレ(2018年)芸術監督。CIMAM(国際美術館会議)理事(2014年~)、小田原文化財団理事(2009年~)。京都造形芸術大学大学院芸術研究科教授(2016年~)。ニューヨーク近代美術館・近現代美術国際キュラトリアル・インスティテュート修了(2014年)。日本及びアジアの現代美術を中心に企画・執筆・講演等多数。



建畠哲
AKIRA TATEHATA

1947年京都府生まれ。早稲田大学文学部仏文学科卒業。「芸術新潮」編集者、国立国際美術館主任研究官、多摩美術大学教授、国立国際美術館長、京都市立芸術大学学長を経て、現在、多摩美術大学学長。全国美術館会議会長。埼玉県立近代美術館長、京都芸術センター館長、草間彌生美術館長を兼任。1990年、1993年にヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナー、2001年に横浜トリエンナーレ、2010年にあいちトリエンナーレ、2017年に東アジア文化都市京都のメイン事業「アジア回廊 現代美術展」の芸術監督。詩人としては、『余白のランナー』で歴程新鋭賞、『零度の犬』で高見順賞、『死語のレッスン』で萩原朔太郎賞を受賞。

基本情報

概要

事業名称	京都文化カプロジェクト 2016-2020 野外インスタレーション公募展
会期	2019（平成31）年2月16日（土）～3月17日（日）：予定 ※開場時間／10時～18時：予定 ※会期中無休
会場	旧京都府立総合資料館 前庭 （〒606-0823 京都府京都市左京区下鴨半木町1-4）
主催	京都文化カプロジェクト実行委員会 （構成：京都府、京都市、京都商工会議所等）
企画・制作	京都芸術センター

公募について

京都の景観や文化を活かし、都市における空間を大胆かつ想像力豊かに活用し、日常に楽しみと刺激を与える作品プランを募集します。

書類選考（1次審査）、面接選考（2次審査）を行い、1点の大賞プラン、3点程度の入選プランを決定します。

大賞受賞プラン1点には制作補助費として500万円（税込）を授与します。（作品の制作、設置、展示、修繕、撤去及び運搬、並びに、大賞受賞者の会場までの交通費や宿泊費、税金、保険など、当展覧会の出展に関わる費用はすべて含みます。支払方法については、受賞決定後、事務局と協議の上、決定します。）

大賞以外の入選プランは、展覧会会期中に、プラン展示を行うとともに、賞金5万円（税込）を授与します。

応募に関するお問い合わせ

京都芸術センター 京都文化カプロジェクト公募展係

Tel：075-213-1000 e-mail:info@kac.or.jp

賞	大賞：1点（制作補助費500万円、作品展示） 入選：3点程度（賞金5万円、プラン展示）
審査員	安藤 忠雄（建築家） 片岡 真実（森美術館チーフ・キュレーター、京都造形芸術大学教授） 建畠 哲（京都芸術センター館長、多摩美術大学学長） ※敬称略、順不同※会期中無休

応募資格

年齢や国籍、個人、団体などは一切問いません。
責任を持って、作品制作及び展示を完成させることができる方。

応募・制作規定

作品のジャンルや手法、素材、形態、サイズなどは問いませんが、火気、ガス、煙、周辺に影響を与える光や音は使用できません。

大賞に選出するプランは、展示終了後、会場を原状復帰できるものに限ります。

旧京都府立総合資料館の建物は使用できません。ただし、映像の投影など壁面の使用については、観覧者が近づかないよう安全対策を行えば可能です。

作品は約1か月の展示期間に耐えうる強度（基礎なども含む）を前提に制作していただきます。設計図や図面などがあれば応募書類に準じ、添付してください。展示作品はどのような天候や自然環境にも耐えられる作品であることが前提です。防火、防水、防風及び防塵などの対策も出展者自身で適切な措置をお願いします。

また、入場料の徴収はできません。

旧京都府立総合資料館内のトイレは使用できません。また、建物からの電気及び水の提供はありません。映像機器や照明機器などが必要な場合、機器と配線は出展者自身でご用意ください。企画書に展示に必要な所要電力量を明記してください。水を使用する場合は、出展者自身でご用意ください。

すでに発表された作品は応募できません。また、第三者の著作権や肖像権を侵害するもの、公序良俗に反するものは対象外です。

大賞作品の設置場所や形態については、法令や安全対策など諸事情を踏まえ、事務局と協議の上、最終決定します。

応募した作品プランから作品の内容や形状を著しく変更した場合は、受賞を取り消す場合があります。



応募方法

<p>応募受付期間</p>	<p>2018（平成 30）年 6 月 25 日（月）～ 9 月 23 日（日） ※必着。持ち込み不可。</p>
<p>応募方法</p>	<p>上記期間中に①応募用紙（必須）、②企画書（必須、A4 サイズ 4 枚以内）、 ③その他資料（任意）を以下のいずれかの方法で提出してください。</p> <p>応募用紙は下記特設サイトからダウンロードしてください。 https://culture-project.kyoto/feature01/</p> <p>特設サイト（https://culture-project.kyoto/feature01/） 下部の応募フォームより応募</p> <p>電子メール：タイトルを「京都文化カプロジェクト公募展の応募」とし、 ①～③を添付して京都芸術センター（info@kac.or.jp）へ送付</p> <p>郵送：①～③を同封して京都芸術センター （〒 604-8156 京都市中京区山伏山町 546-2）へ送付</p> <p>※会期中無休</p>

本件広報に関するお問い合わせ

京都芸術センター 京都文化カプロジェクト公募展 広報
 西谷（リレーリレー）
 Tel: 090-2062-6963 e-mail: eriko@relayrelay.net